

江田島市立大古小学校で 里海の自然を体験する活動 が行われました！

江田島市は四方を海に囲まれた自然豊かな地域であり、市を挙げて里海のもつ魅力を全国に発信しています。江田島市教育委員会もこの取り組みの一環として、子供たちが自然に親しみ、知的好奇心や探究心を育てながら、生命を尊び、自然を大切にし、郷土を愛する豊かな心を育むことを目的として、里海学習を推進しています。江田島市ではさとうみ科学館を中心に、市内の全ての市立小学校を対象として、里海である近隣の海岸で海の生き物に直接触れる体験活動である「マリン・アドベンチャー」を総合的な学習の時間の一環として実施しています。

本来であれば複数の学校が合同で実施し、児童間で交流を図るのですが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症への対応のため、学校ごとに実施しました。

5月16日 三高小学校 5月27日 中町小学校 6月13日 切串小学校
6月14日 江田島小学校 7月12日 鹿川小学校 7月13日 大古小学校
今回は、最後に実施された大古小学校の活動について紹介します。

里海とは？

人手が加わることにより生物生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域のことです。(環境省HP)

里海は、古くから水産・流通をはじめ、文化と交流を支えてきた大切な海域です。高い生物生産性と生物多様性が求められるとともに、人と自然の領域の中間点にあるエリアでもあり、陸地という里山と同じく人と自然が共生する場所でもあります。健全な里海は、人の手で陸域と沿岸海域が一体的に総合管理されることによって、物質循環機能が適切に保たれ、豊かで多様な生態系と自然環境を保全することで、私たちに多くの恵みを与えてくれます。(環境省HP)

ねらい

- ・里海の生き物に直接触れる体験活動を行うことにより、身近なふるさとの自然の多様性やすばらしさに気付かせ、児童の知的好奇心や探究心を育む。
- ・江田島市内の児童が共通の体験活動を行い、学校間での交流を深めることを通して、コミュニケーションの力を育む。(コロナ対応のため令和4年度は学校間交流を中止)

内 容

- ・ 観察場所は各小学校の近隣（大柿町小古江）の海岸（ふれあいプラザさくらの護岸下）とし、里海の特徴である砂浜、干潟、藻場、岩場すべてがそろっている海岸の特性を活かした課題設定や自由観察による学習を行う。
- ・ 海の生物を採集した後、生物種ごとに分類し、講師の解説を聴きながら観察する。
- ・ 採集した生物は観察後に海に戻し、教室へ帰って振り返りとまとめの学習を行う。

講 師

さとうみ科学館 館長 西原 直久さん



さとうみ科学館 学芸職員 平山 良太さん



事前学習

まず、3・4校時で事前学習を行いました。講師の西原さんと平山さんのお二人から活動の流れや海辺の生き物観察のポイント等について、多くの写真やクイズを交えてわかりやすく説明していただき、子供たちも意欲的に話を聞くことができました。



【大切なキーワード】

- ・ 地形と地域性
- ・ 種と特徴
- ・ 環境指標生物
- ・ 垂直分布と水平分布
- ・ 生物多様性
- ・ 持続可能な開発

見つけたら特に気を付ける必要のある「海辺の危険な生物」についても事前に学習し、採集の時に気を付けます。

- | 【毒をもつ生き物】 | 【触るとケガしやすい生き物】 |
|-----------|----------------|
| ・ゴンズイ | ・マガキ |
| ・ウミケムシ | ・ケガキ |
| ・ハオコゼ | ・フジツボ |
| ・アカクラゲなど | ・ムラサキウニなど |



👉👉 採 集

マイクロバスで近隣の海岸へ移動しました。観察道具の説明を受け、自由採集がスタートしました。児童たちは、岩場や潮が引いた海辺へ移動し、生き物を探しました。石の下をひっくり返したり、海の中を覗いたりと班の仲間と協力しながらエビや魚、貝やウニなど様々な種類の生き物を採集することができました。児童たちは、暑い屋外での活動でしたが、水分補給を行いながら時間まで集中して取り組んでいました。



大きな石をひっくり返してみるといろいろな生き物がたくさん見つかりました！

ウニを発見！
初めて触ったよ！



生き物を探すポイントを講師の方がさりげなくアドバイスしてくれます。





分類・観察

採集した生き物は、全員で同じ種類ごとに分類してケースに集めました。まず、みんなが採集してきた生き物をじっくり観察します。近くの海でこれだけ多くの種類の生き物がいることにみんな驚きです。

【今回見つかった主な生き物】

ムラサキウニ、ガザミ、ニホンクモヒトデ、マヒトデ、アミメハギ、ヒザラガイ
アオウミウシ、アサリ、ホンヤドカリ、ヒライソガニ、スナガニ、マンジュウボヤなど



解説

分類した生き物ごとに、講師の平山さんが詳しく解説してくださいました。生き物の生態や江田島の自然環境との関わりなど、話の内容は多岐に渡ります。教室での事前学習の時に出てきた「環境指標生物」の具体的な話もあり、難しかったこともどんどん分かってきます。



生き物を前にしての詳しい説明に全員が聴き入っています。江田島の海には多様な生き物が生活していることがよくわかります。



海藻に産み付けられたイカの卵が見つかりました！とてもめずらしいそうです。自分が見つけて採集した生き物が紹介されると、みんなうれしそうです。



振り返りとまとめ



学校に戻って振り返りを行いました。今日の学習を振り返り、「気付いたこと」、「発見したこと」、感想などをまとめました。また、海辺の生き物が、これからも江田島市の海で生き残っていくためにはどうしたらいいかなどを考えました。



まとめとして、西原さんから「自然を知ることで問題を知ることができ、その原因と結果の関係について考えることができる。それが環境を知ることである」ことや「生物多様性には『個性』と『つながり』が重要である」ことなどの話をさせていただきました。

最後に、一日お世話になった講師のお二人にお礼の気持ちを伝えてマリン・アドベンチャーを終わりました。

海辺で活動してとても疲れたけど、みんな大満足の日になりました。



自然と人間の共生を実現する江田島の里海のよさがよくわかりました！